

委員会等活動報告 —北の大地から未来に向けて—

●防災委員会

防災委員会の 20 年 「技術者の心、絆」

1. 防災委員会の発足

防災委員会は、平成 7 年の阪神・淡路大震災を契機に全国に先駆けて同年 5 月 29 日に発足し平成 27 年度に 20 周年を迎えました。

2. 防災委員会の活動の系譜

当委員会の目的は、防災に関する諸問題を調査研究し、北海道の災害を最小限に食い止める防災体制や防災型国土のあり方などを提言するとともに、災害発生地域への技術支援および情報提供をすることです。

平成 9 年に「技術士からの提言—地震災害に備えて」（ダイジェスト版「技術士からの 27 の提言」）を発刊、平成 13 年度からは「都市型防災」をテーマに研究活動を行い、平成 17 年には「第 1 回全国防災連絡会議」を全国大会（札幌）に合わせ開催し、その後、平成 19 年には「防災・減災カード」を発行、平成 21 年からは防災教育 WG メンバーが中心となり、一般市民を対象とした「防災教育セミナー」や「防災リーダー研修」などを開催してきております。また、東日本大震災後の取り組みとして、平成 25 年 10 月に第 40 回技術士全国大会（札幌）にて「東日本大震災を教訓とした『北海道の防災』～教訓と提言～」と市民向けの「地震災害に関する Q & A 集」を発行しました。

3. 防災委員会 20 周年記念誌

当委員会では、20 周年記念誌「技術者の心、絆」を発刊しました。歴代委員長をはじめ各役員を歴任した技術士諸先輩の思い出話と活動履歴が網羅されています。そこに書かれているのは、巨大災害を前

浅野基樹（あさの もとき）

技術士（建設・総合技術監理部門）

北海道本部 防災委員会 委員長
国立研究開発法人 土木研究所
寒地土木研究所 研究調整監



にしていたたまれない技術者の心でした。副題を「技術者の心、絆」としたのは、技術者の熱意と連帯感・絆が綴られていたからです。

4. 取り巻く状況とこれから

東日本大震災においては、日本学術会議、土木学会、地盤工学会、電気学会など多くの学会等から提言類が発表されました。平成 28 年 1 月にはこれら多くの学会が参画する「防災学術連携体」が発足し活動を開始しました。日本技術士会でも平成 24 年 3 月に「東日本大震災から 1 年 復興へ向けた技術士宣言」をとりまとめ、防災・減災に関する科学技術コミュニケーションとして地域社会に貢献していくとされているところです。当委員会の「東日本大震災を教訓とした『北海道の防災』～教訓と提言～」でも、防災について「よく知り、よく備え、正しく恐れる」ことが重要であり、そのため科学技術コミュニケーションとしての役割を担いたいと結んでおります。

そして、平成 28 年 4 月、熊本地震が発生しました。

今後、技術士会としてどのような活動を行うべきか、何が出来るのかを見いだすのはなかなか難しい問題です。

能登初代委員長は 20 周年記念誌への寄稿を以下のように結んでいます。

「これから先も人知を越える災害が発生するだろう。防災委員会は技術士の英知を集め、国民の安全・安心を確保するため、防災・減災の情報を発信し続けることが求められる。」

初心に戻ることを肝要のようです。